



二つの原子力発電所
福島原発汚染視察③

福島県には東京電力の二つの原子力発電所がある。北部の双葉町と大熊町にまたがる福

島第一発電所と、富岡町を挟んで楢葉町の福島第二発電所である。

正確に言えば東日本

大震災で爆発事故を起こした第一発電所は廃止が決まっているので、福島には二つの原子力発電所があったと言うべきかもしれない。

十四日に三号炉で水素ガス爆発。二つの発電所は直線にして十二キロ離れているが、二つとも三月十日の津波で大きな被害を受けた。

東京大学と福島大学の調査によると、福島第一原発の第一号炉で水素ガス爆発などにより、大量の放射性物質が発電所外に放出した

この放射能汚染で五年半過ぎた今も、多くの人が避難生活を強いられているのだ。掲載の地図の市や町は半径二十キロ圏内の区域だが、放射能汚染は風向きにより異なり、報道で何度も耳にした飯館村などは半径三十キロ圏外であるにもかかわらず、汚染区域なのである。

同じように津波の被害を受けた第二発電所のことは余り報道されなかったのが今回の視察で初めて当時の様子を知った。

第一発電所のあった双葉町と大熊町の多くは被曝(ばく)線量が五十ミリシーベルトを超える「帰還困難区域」で、発電所も見ることができなかった。

二発電所は富岡町の海岸近くから見ることができた。案内してくれた語り人(かたりべ)の説明

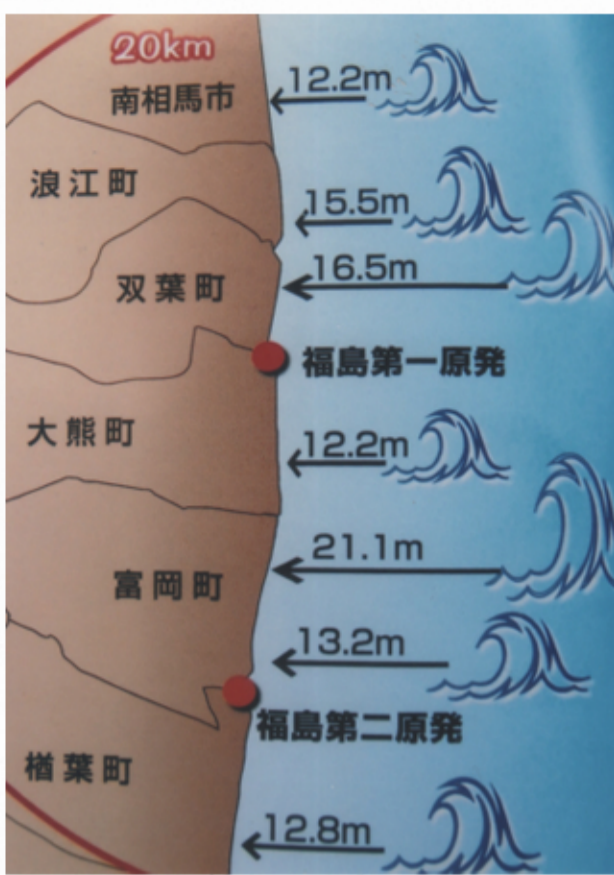
語り人は「第二発電所も爆発寸前だった」と説明する



によると、実は第二発電所も非常に危険な状態だったという。想像を超える津波に津波で外部電源などが大きな被害を受けたが、幸運にも四つあった外部電源のうち一つだけ被害を免れ、発電機までの八百メートルを人力で継ぎ、危機一髪で第一発電所のような全交

流電源喪失状態になるのを防いだという。語り人は当日の第二原子力発電所の大きな写真を張りつけたパネルを私たちに見せながら「もし第二発電所も爆発していたら想像できないほどの放射能汚染が起こっていたら、原発が起こっていたら、全国十六カ所にある原子力

写真をよく見ると、第二原子力発電所の建物とは絶対に許されない。



太平洋に面した「浜通り地域」の津波

配られたパンフレットでも「津波という天災を嘆く間もなく、人災によっていまだ終わらぬ被害を受ける」と言い、原発事故は「人災」と断言する。全国十六カ所にある原子力